

熊本競輪場施設整備基本計画 ～概要版～

I. 再開の決定

【再開決定の考え方】

1. 熊本競輪は累計 660 億円を一般財源に繰出し、都市基盤など市民生活の向上に寄与してきた
2. 熊本地震により大きな被害を受け自場開催ができない状況のなか、再開の可否を含めた競輪場のあり方について検討し、「復興財源への寄与」「防災拠点として生まれ変わること復興のシンボルとなり得る」として再開を決定

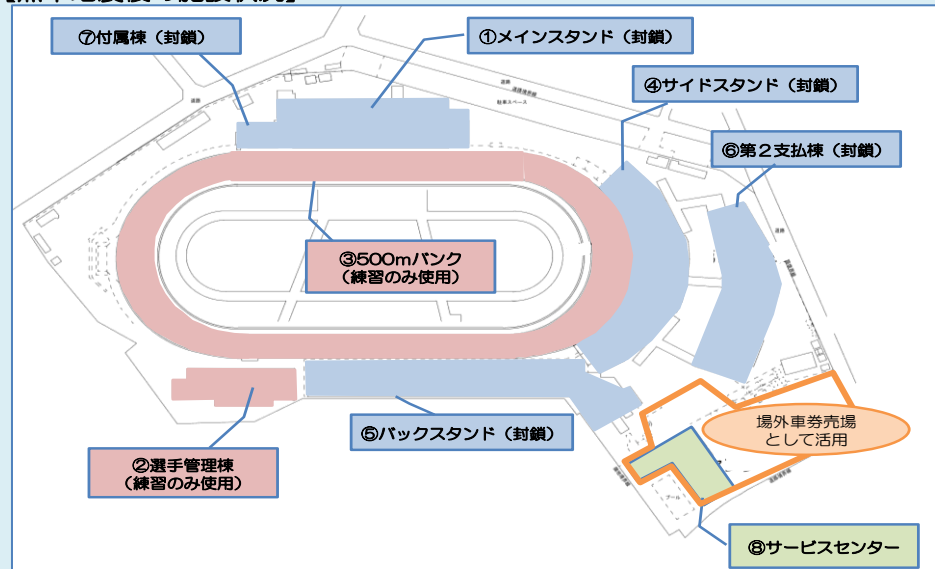
【整備手法の検討結果】

3. 施設整備手法については、競輪事業会計からの繰入の継続と財政基盤の確保を考慮して、整備費用が安価である既存施設改修が有効
4. 熊本競輪の再開は、その事業収益が熊本地震からの復興財源に寄与することを目的としており、収益性の面からも 400mバンクの整備が有利

II. 熊本競輪場の現状

1. ほとんどの施設が地震で被災し、一部を除き封鎖中
2. 被害がなかったサービスセンターを活用して場外発売を実施

【熊本地震後の施設状況】



【被害状況】（写真 左：バックスタンド、右：サイドスタンド）

- ・メインスタンド…4.5 階審判室大破（封鎖中）
- ・バックスタンド…観覧席ガラス破損（封鎖中）
- ・サイドスタンド…大屋根破損（封鎖中）
- ・第2支払棟…内部損傷（封鎖中）
- ・選手管理棟…内部損傷（立入り制限、選手が一部使用）
- ・サービスセンター…被害なし（場外車券売場として使用）



III. 検討の経緯

1. 【熊本競輪事業検討会】の意見

【競輪場の再開について】

- 意見まとめ
- ・復興財源として寄与するために現地で早期に縮小再開が望ましい
 - ・3つの理念「地域貢献」「災害対応」「アマチュアスポーツの振興」の実現、売り上げ向上、経費削減
 - ・防災拠点として市民生活に貢献

【バンク周長と施設整備手法について】

- 意見まとめ
- ・総合的評価の結果 400mバンクによる施設整備を提案
 - ・バンク縮小により新たに生まれる空地を生かし、3つの理念の実現を図る
 - ・財政基盤維持のため、既存施設の利活用を図る

2. 検討のプロセス

【3つの理念の実現】

- ・都市公園内の施設として不要な施設を整理し、市民が活用できる施設や空間の整備、災害時を想定した防災倉庫や避難所としての活用、建物やバンクを広く自転車競技の練習・大会に利用できるように施設整備

【施設規模の設定】

- ・競輪場収容規模：5,000 人、メインスタンド収容規模：2,000 人
- ・駐車場：500 台

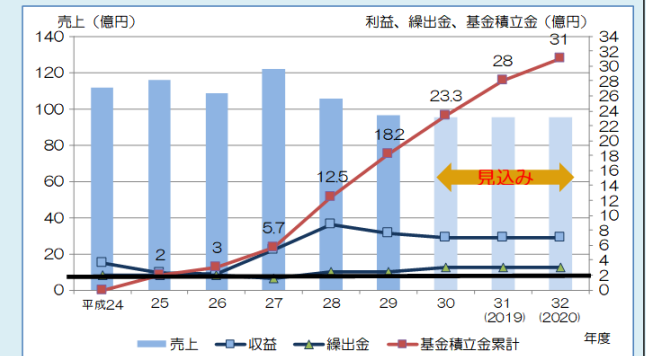
【整備財源の見通しと考え方】

- ・施設整備基金は、一般会計への繰出金 2 億円を確保したうえで、2020（平成 32）年度時点で約 31 億円の積み立てを見込む
- ・場外の駐車場を売却することでさらに財源の確保が可能
- ・施設整備は、基金積立額および駐車場売却による財源の範囲内で行う

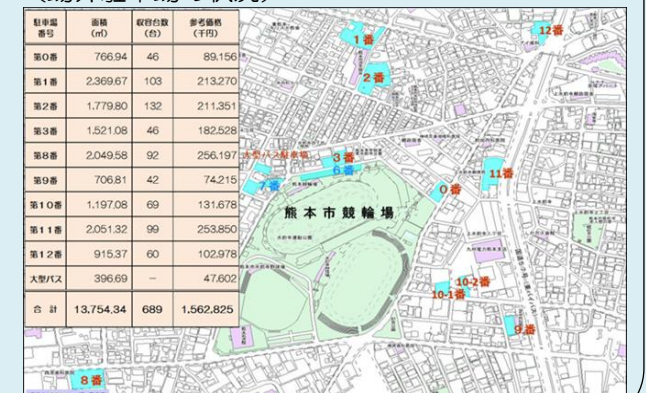
【施設整備手法の検討】

- ・周長別平均では、400mが収益性、G I 誘致率等が高い
- ・バンクを縮小しても、既存施設改修で対応可能

（熊本競輪の収支見込）



（場外駐車場の状況）



IV. 施設整備の基本理念

1. 機能が集約された競輪場
2. 地域防災、地域コミュニティの拠点となる競輪場
3. アマチュアスポーツ振興の拠点となる競輪場

V. 基本理念に基づく整備イメージ



【収容規模】

建物収容数：2,000人（1,250席）
場内収容数：5,000人（立見含む）
駐車場台数：500台

1. 【機能の集約】

- ・メインスタンドに観戦・サービス機能・施設管理機能を集約
- ・3階大屋根下の一部を屋内化（特別観覧席、ロイヤル席、来賓席を整備）

（屋内化イメージ）



（屋内席イメージ）



（資料）武雄競輪場

2. 【地域防災、地域コミュニティの拠点】

- ・駐車場を整備、災害時は避難場所として活用
- ・バンクを含め一般開放、イベント会場等に活用
- ・サービスセンターを地域開放施設として活用
- ・災害用マンホールトイレ、防災井戸、防災倉庫の整備

（バンク内イベントイメージ）



（資料）いわき平競輪場

（マンホールトイレ）



3. 【アマチュアスポーツ振興の拠点】

- ・1階の検車場スペース拡充
- ・3階にガールズ選手控室の整備
- ・増築部分に一般市民に開放されたローラー練習室、ジム、シャワー室、会議室等を整備

（増築イメージ）



（資料）豊橋競輪場

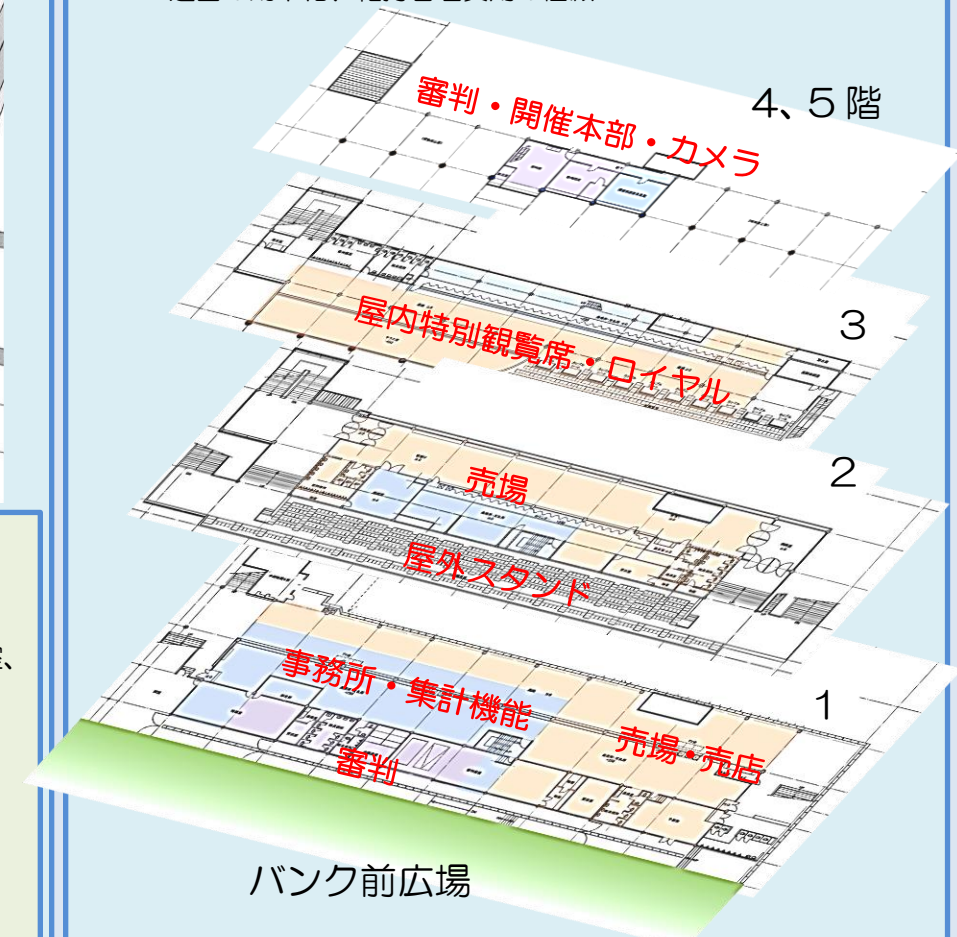
（ローラー室）



（資料）別府競輪場

既存メインスタンド改修イメージ（参考）

- ・解体施設の機能を集約
……屋内観覧席、施行者事務所、売店・食堂、集計センター等
- ・集約による効果
……運営の効率化、維持管理費用の低減



VI. 整備費用・スケジュール

1. 概算事業費：約29億円

2. 竣工予定：2021（平成33）年12月

（概略スケジュール）

項目	2019年度 （平成31年度）	2020年度 （平成32年度）	2021年度 （平成33年度）
設計 （建物・敷地・バンク）	11か月		
解体工事 （建物・バンク）	8か月		2か月
建築工事 （建築改修・増築）		12か月	
土木設計・工事 （バンク・駐車場）			15か月